

令和8年度

学校関係者評価報告書

穴吹デザイン専門学校

学校関係者評価報告書

穴吹デザイン専門学校 学校関係者評価委員会は、令和7年度学校自己評価に基づく学校関係者評価を実施いたしましたので報告致します。

令和 8 年 7 月 27 日
穴吹デザイン専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価の目的

より実践的な職業教育の質を確保するため教育活動の観察や意見交換等を通じて、穴吹デザイン専門学校の自己評価の結果を評価することを目的とした委員会を置く。

委員会は、穴吹デザイン専門学校が行った教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた本校の評価を行い、その結果を校長に報告する。

2. 委員・教職員

(委員)

秋田 正洋 段原地区社会福祉協議会 会長
河野 幸浩 広島県立広島工業高等学校 校長
川上 佳代 有限会社コンセプトワーク 代表取締役・日本グラフィックデザイン協会 運営委員
山岡 修 穴吹デザイン専門学校同窓会 創進会
入江 啓一郎 穴吹学園保護者会 会長

(学校教職員)

尾崎 隆一 穴吹デザイン専門学校 校長
中井 里美 穴吹デザイン専門学校 副校長
種田 真幸 穴吹デザイン専門学校 事務局長・就職キャリアセンター部長・産学地域連携センター長
平田 卓也 穴吹デザイン専門学校 教務部部長、産学地域連携センター
田中 直美 穴吹デザイン専門学校 教務部課長

3. 学校関係者評価委員会実施日時

開催日時 : 令和 8 年 6 月 17 日(水)15:00～17:00

開催場所 : 穴吹デザイン専門学校 A702教室

4. 自己評価結果の説明・報告(自己評価報告書参照)と財務状況の報告

当校の「教育理念」「目的」及び「令和6年度の目標と計画」について説明。保護者アンケート結果を報告し、財務状況と自己評価項目について報告。「評価結果(総括)」と「取組状況とその分析」「今後の改善方策等」について報告を行った。書式は穴吹カレッジグループ所定の書式にて実施。

各評価項目について、「A」十分である「B」おおむね十分である「C」やや不十分である「D」不十分である の4段階にて評価。財務状況については貸借対照表と資金収支計算書により説明。適切な経理処理が行われており、健全な財務状況が継続している。

5. 報告ならびに意見交換・質疑応答

●保護者アンケート結果報告について

- ・アンケート回答率を向上させるためにQRコードを学生に送ったうえで保護者に回答を頂くように周知を徹底したが34, 4%の回答に留まってしまった。回答率を上げるように毎年取り組んでいるが、引き続き課題として取り組む。
- ・Q1からQ4については「評価している」という回答が大半。Q5・Q6の学校行事に関する評価はそれぞれ「あまり当てはまらない」が1/4を占めているため改善を検討したい。
- ・Q7のメンタルサポートについては相談時間の関係で、利用しやすい昼休みの時間帯が予約で一杯の状況になることが多いためであると分析している。改善策を検討したい。
- ・Q10の就職指導に対しては「目標とする就職先ではなく入学させた意味がなかった」という感想が寄せられており委員に説明。学習を通じて就職への考えが変わったことを家庭内で共有出来ていないことが原因であることを報告。家庭内での意思疎通につながる関りを実行したい。
- ・情報の発信については36, 4%が不満に感じているため、現在取り組んでいる出席状況のメール配信などを参考として取り組み方法を検討したい。

●事業報告・財務状況報告について

- ・161名が入学し在籍数は324名。退学率は3, 8%で163名が卒業。うち151名が就職。
- ・卒業生数を分母とした内定率は92%。卒業後も就職支援を継続して職業に就くためのサポートを実施している。
- ・入学生数の高止まりが続いているため財務状況も安定した状態が継続出来ている。
- ・在校生では広島平和ポスター学生コンペティション2025 準グランプリを受賞、オンラインゲームを開発しているWFS主催のアナデンサマーイラストコンテスト 大賞受賞などの実績を残せた。
- ・卒業生、講師の活躍状況では令和7年度の2つについて報告を行った。絵本の新刊が発売された卒業生など、各方面で活躍している。

●自己評価報告書について

自己評価報告書の理念・目的・目標・計画と総括した結果を報告したのちに、評価項目別評価結果について①～⑫までの全ての項目について取り組みと結果を報告した。

(総括した結果について)

- ・学園祭(BRUCKE)を実施し、学科を超えた交流が図れました。また、第一線で活躍されている多彩なゲストをお招き出来たすることで、学科の枠を超えてデザインへの関心を高めることが出来たと実感しております。
- ・地元の幅広い業界の仕事内容の変化を把握するために、企業訪問や求人・社員教育に関する交流行事に参加して情報収集を行い学生の就職内定につなげました。
- ・商品企画デザイン学科・ネット動画クリエイター学科については募集目標は未達でしたが、昨年度よりも学生数は増加致しました。今後も募集目標を達成する工夫を継続致します。
- ・授業用インターネット回線の増強し円滑な授業運営が行えるよう教育環境の改善と、学生の特徴に合った進路支援など変化に対応出来る学校として引き続き努力を継続致します。

(総括した結果の課題と改善方策について)

- ・授業実施に関しては学科の枠を超えた人員配置を行い更なる活性化を図ります。また、Webサイトから授業の様子、在校生・卒業生の活躍を含め活動を継続発信致します。
- ・入学生数の目標未達学科については募集活動の内容を見直しと改善を実行致します。
- ・選ばれる学校になるためにマーケティング展開を行い、学校のブランディング構築を推進致します。

- ・卒業生の活躍に更に注目し、卒業生の作品購入や取材を行うことでデザイン分野での活躍フィールドの幅広さを伝えて行きます。
- ・授業におけるAI活用のガイドラインの作成、多様化する学生の学びの状況に応じた支援策の構築に取り組みます。

(①教育理念・目的・育成人材像について)

- ・デザインに関する業界の業務内容は急速な変化を続けており、変化に対応出来る人材像を継続して探り教育に反映して参ります。

(②学校運営について)

- ・学科責任者の配置と管理職ミーティングを実施して、情報の二重管理の防止を行うなど円滑に学校運営が行えるように致しました。

(③教育活動について)

- ・定期的な講師会や学科責任者会議等を実施して情報の伝達と共有を図り、常に良好な教育活動内容であるよう留意しています。学外特別授業も実施して、デザイン業界で活躍されている方の実体験から学ぶ取り組みも継続実施しています。

(④学習成果について)

- ・検定試験の合格率アップのために特別講義を実施致しました。合格したという結果を学生には自信にしてもらいたいと考えていますが、学んだ知識や技術を使いこなせることが大事です。検定試験合格後も学生への意識付けを継続致します。
- ・今後の改善方策については、授業では実技が多いため課題への評価の精度や透明性であったり統一性の担保が課題であると考えます。

(⑤学生支援について)

- ・学生のニーズを踏まえて各種支援の充実に継続して取り組んでいますが、メンタル面の支援を充実させるために心理カウンセラーの相談を週に一回と固定致しました。結果として特に昼休みの時間帯での相談希望者が増えております。
- ・相談希望者が増加したことで予約が取りにくい点が問題点として顕在化しておりますので改善を検討したいと考えています。
- ・卒業生への支援については卒業生対象の求人情報の提供や企業への引率を実施致しました。今後も柔軟な支援を行って参ります。

(⑥教育環境について)

- ・インターネットを活用した授業が増加しており、ネットワーク通信環境を安定させる必要があることから光回線を増設致しました。データ通信量は今後も増加して行くためネットワークインフラの充実に図ります。

(⑦学生募集と受入れについて)

- ・イベント動員は前年比90%と減少し入学生数も微減となりましたが、学科・部署の垣根を超えて募集活動に尽力致しました。今後は更に進路検討者に対してデザイン分野と職業理解が出来る情報発信を増やして参ります。

(⑧財務について)

- ・入学生数が高止まりの状態が続いているため昨年度に引き続いて財務状況は安定しています。

(⑨法令等の遵守について)

- ・情報漏洩を防止するためパソコンの持ち出しに制限を掛けて運営致しました。

(⑩社会貢献・地域貢献について)

- ・地域や企業からの依頼については対応可能な範囲でお応え致しました。広島駅前通り勉強会ほかの地域イベントにも参加させて頂きました。今後も地域社会や業界団体と連携し教育効果を高める取り組みを強化したいと考えています。

(⑪国際交流について)

- ・チャレンジ海外研修(ベトナム)の実施と銘傳大学とのオンライン交流により、文化の違いや価値観の違いなどの理解を深めることが出来ました。

(⑫総括)

- ・各点検項目の取り組みは概ね達成されており、継続して適正な学校運営がなされています。今後も業務の担当責任者を明確にし、部門間の連携を強化して学校運営を行います。

《報告全体を通して委員からの意見・質問》

【秋田委員】

・漫画教育について

先日、東京の「やよい美術館」で少女漫画『りぼん』で12年間活躍した立掛ひでさんの展示を見学致しました。漫画家として生き残るための壮絶な努力と、それを表に出さない姿勢に大変感銘を受けました。御校の学生さんも同様に悩みながら制作しているのだろう、努力をされているのだろうと感じました。

・地域貢献への謝辞について

「広島駅前通り勉強会」や「水辺のジャズ」の実行委員長として、教職員や学生さんが10数年に渡り協力頂ていることに感謝致します。イルミネーション制作では自由な発想を形にして頂いて、本当にありがたい存在であると感じています。

【河野委員】

・保護者アンケートについて

保護者アンケートの回答率が約35%であることを受け、アンケート結果の受け取り方について意見があります。成績等が良ければ満足度が高く、思い通りの結果でなければ評価が低くなる傾向があります。結果として現れた数値に一喜一憂するのではなく、学生の成績や就職先との相関を分析し、妥当性を検証することが大事だと思います。

保護者アンケートの回収率を上げる方策として、保護者世代にはデジタル書式に不慣れであることにも一因があると思います。確実に回収できる「紙のアンケート」の併用を検討されてみてはいかがでしょうか。

・入学前の説明が不十分だと感じた保護者対応について

「就職に関しての説明が不十分と感じて不安だったが入学させた」という保護者の意見に対し、オープンキャンパス等で個別に質問できるブースを設けるなどの工夫をされると良いのではないのでしょうか。どの業界でも人材不足を感じていると思いますが、特に建築・土木業界の人材不足は深刻であり、工業技術系の学校の価値をより強調すれば保護者も安心すると思います。

【川上委員】

・学生の幼年化と保護者の介入について

10年前と比べ今の学生・若者は精神的に幼くなっており、保護者の関わりや介入が深まっていると感じています。先生方の「面倒見の良さ」は、若者の自立の遅れの裏返しでもあるように感じました。

- ・デザイン業界の現状とAIについて

グラフィックデザイン学科の入学生が減少している点が驚きでした。AI時代だからこそ「手に職をつける技術」が重要になると感じます。また、若手デザイナーの中には期日や締め切りに対してプレッシャーを感じてメンタルを崩すケースがあるため、企業側としても既存データの修正など難易度の低い作業から段階的に慣れさせる工夫をしています。

- ・AIへの依存について

あらゆる文面をAIに頼り、「自分で考えた結果での失敗を嫌う」という傾向が強まっているように思いますが、AIに頼りすぎて失敗を嫌う傾向は改善が必要に感じます。

【山岡委員】

- ・AI活用のガイドラインについて

企画書作成など実社会では更にAI化が進む中で、教育機関としてどこまで許容するかの方針を明確にする必要があると感じます。

- ・アンケートの質問や回答内容の方向性について

学園祭の満足度調査などについては「これ以上充実させる必要があるか」の回答項目を追加するなど、これまでの回答から少し角度を変えてみてはいかがでしょうか。行事で経験を積むことも大事ですが、授業時間を確保するという点では学校のご苦勞もあると思います。行事と授業とのバランスを問う項目への見直しをされることも良いのではないのでしょうか。

【入江委員】

- ・アンケート回答の誠実さについて

学校側が不備な点に正直に「×」をつけて検証している姿勢は、他の学校にはない良さと感じます。質問に誠実に答えているからこそ「×」の評価のように思いました。

- ・サイレント・マジョリティへの視点について

アンケートに回答しない70%近くの保護者は概ね満足している層であると推察しつつも、回収率向上のためには「保護者様へ」と書いた封筒に入れてお渡しするなどのアナログな工夫が有効かも知れないと感じました。

6. 全体を通してのご意見など

- ・生成AIとの向き合い方について

(平田部長より)

就職活動においてもリスク管理が必要な事例がありました。「AIではなく自分の経験に基づいた言葉で書いてほしい」と企業様から釘を刺された事例が起きています。

【河野委員】

AIを禁止するのではなく、使い方の教育へのシフトが必要だと感じています。例えばAIで作成した文章を自分の年齢・学年・経験に合ったレベルに変換させて、今の自分と比較をして理解を深める、などの授業運営です。AIを活用して自分の言葉を磨くためのツールとして使いこなす、使い方の知恵を教えるべきだと思います。

本日は貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。これからも皆様のご期待にそえますよう、頂きましたご意見を日々の教育に活かして参ります。今後も宜しくお願い申し上げます。

以上